

額田王、近江国に下る時に作る歌、  
井戸王の即ち和ふる歌

一七番

味酒 三輪の山 あをによし 奈良の山の  
まに い隠るまで 道の隈 い積もるまでに  
つ ばらにも 見つつ行かむを しばしばも 見放  
け む山を 心なく 雲の 隠さぶべしや

反歌

一八番

三輪山を 然も隠すか 雲だにも 心あ  
らなも 隠さぶべしや

一九番

綜麻かたの 林の前の さ野榛の 衣に付  
くなす 目につく我が背